

# 日本頭蓋健診治療研究会・学術集会

## 第9回

# 日本頭蓋健診治療研究会・学術集会

## 抄録集

大会長 内尾 優

会 期 2023年9月24日(日)

会 場 TKP 東京駅大手町カンファレンスセンター

第9回日本頭蓋健診治療研究会学術集会事務局

## 第9回日本頭蓋健診治療研究会・学術集会

第9回日本頭蓋健診治療研究会・学術集会  
大会長 内尾 優

このたび、第9回日本頭蓋健診治療研究会学術集会を2023年9月24日（日）に開催することとなりました。本学術集会のテーマは「頭の形と発達」としました。

今まで、頭の形は美容上の見た目の問題として捉えられ、病的な問題は少ないと考えられてきましたが、近年において頭の形が乳幼児の発達に影響を与えることが示唆されてきています。また、頭部変形に対するヘルメット療法は徐々に普及し、日本の街中でも時折ヘルメットを被っている赤ちゃんを見かけるようになりました。しかしながら、本邦においては頭の形と発達に関する研究や、ヘルメット療法を行ったお子さんの発達に関する報告はまだ少ないのが現状であり、様々な医療者やご家族の視点から一緒に頭の形と発達について考えていきたいと思っております。

そこで、本大会においては、メインテーマに則った演題発表についてご発表、討論する形式といたします。様々な職種の方々と意見交換をすることで、頭の形に悩む・心配する、お子さんやご家族に貢献できれば幸甚に存じます。多くの皆様方のご参加を心よりお待ちしております。

1. 会期 2023年9月24日（日）
2. 会場 TKP 東京駅大手町カンファレンスセンター
3. テーマ 「頭の形と発達」
4. 大会長 東京医療学院大学保健医療学部リハビリテーション学科 内尾優

## 演題発表プログラム

- ① 良性先天性筋緊張低下症と頭蓋変形の検討  
0歳からの頭のかたちクリニック 西巻 滋
- ② 医療的ケア児における頭蓋変形と運動発達  
東京医療学院大学保健医療学部リハビリテーション学科 内尾優
- ③ 新生児集中治療室での体位管理 栄養管理、経口挿管の向きなどの視点から頭蓋との関連  
ベビーのための訪問看護ステーションベビーノ 伊藤祥子
- ④ 新生児集中治療室における理学療法 ～頭部変形に着目して～  
東京女子医科大学病院リハビリテーション部 志真奈緒子
- ⑤ 修正4か月より頭蓋矯正ヘルメット治療を行った早産児の運動発達経過  
東京女子医科大学病院リハビリテーション部 金子裕美
- ⑥ ヘルメット治療を行った脳室周囲白質軟化症児に関する症例報告発達の経過、PTの工夫  
ベビーのための訪問看護ステーションベビーノ 木庭小百合
- ⑦ 頭蓋変形と向き癖に対する医療的ケア児の親へのアンケート調査  
東京医療学院大学保健医療学部リハビリテーション学科 内尾優
- ⑧ 3D画像解析による成人の頭蓋変形と運動パフォーマンスの関連  
池上総合病院リハビリテーション室 河野龍哉
- ⑨ 乳幼児の頭蓋変形に関する実態調査：五島プロジェクト  
長崎大学大学院医歯薬学総合研究科保健学専攻 本多由依

## ①良性先天性筋緊張低下症と頭蓋変形の検討

○西巻 滋<sup>1)</sup>

1)0歳からの頭のかたちクリニック

【目的】良性先天性筋緊張低下症(BCH)における頭蓋変形を検討する。【対象と方法】2022年4月～2023年6月に当院を初診した3～5か月の191例で、定頸の有無からBCHを疑った。【結果】未定頸群(BCH疑い群)は21例(11.0%)、定頸群は170例(89.0%)だった。未定頸群(BCH疑い群)vs定頸群で比較すると、短頭率(%)：105.8vs108.7、前頭部左右対称率(%)：93.2vs93.4、後頭部左右対称率(%)：83.2vs84.2、CA：12.2vs10.9、CVAI：8.5vs7.6であった。短頭率は未定頸群(BCH疑い群)で有意に低かった。【考察】位置性頭蓋変形に占めるBCHは多く短頭症が多かった。BCHは体動が少ないためと考えた。

## ②医療的ケア児における頭蓋変形と運動発達

○内尾優<sup>1)</sup> 木庭小百合<sup>2)</sup> 齊藤ゆう<sup>2)</sup> 石沢由香<sup>2)</sup> 平原真紀<sup>2)</sup>

1)東京医療学院大学保健医療学部リハビリテーション学科

2)ベビーのための訪問看護ステーションベビーノ

本研究の目的は、医療的ケア児の位置的頭蓋変形の発症状況と運動発達との関連について明らかにすることである。対象は、乳幼児専門の訪問看護ステーションにおいて登録されている医療的ケア児とした。評価は、位置的頭蓋変形の重症度を評価するArgenta分類、およびアルバータ乳幼児運動発達検査法を行った。結果より、医療的ケア児における位置的頭蓋変形は、Argenta分類1～3と軽症例が多かったが、発症頻度は高いことが明らかとなった。また、頭蓋変形がある児は腹臥位が遅延している可能性が示唆された。

## ③新生児集中治療室での体位管理

栄養管理、経口挿管の向きなどの視点から頭蓋との関連

○伊藤祥子<sup>1)</sup>

1)ベビーのための訪問看護ステーションベビーノ

新生児の頭蓋骨は少しの圧力や刺激で変化しやすく、それは新生児集中治療室での体位管理でも影響は大きい。入院中自ら体位変換することができない新生児において医療者の姿勢調整がメインとなり、呼吸、循環、消化栄養をトータル的に管理する中で、顔が右下になる管理が増えてしまう現状がある。退院後ご家族から頭の形を気にする発言聞かれること多く、原因を考察しながら入院中にできる対応策など含め考察する。

#### ④新生児集中治療室における理学療法 ～頭部変形に着目して～

○志真奈緒子<sup>1)</sup>

1)東京女子医科大学病院リハビリテーション部

当院新生児集中治療室(NICU)で最も多く理学療法介入の依頼がくるのが極低出生体重児である。極低出生体重児は正期産児に比べ、発達全般が遅延しやすい。それに加え、極低出生体重児は頭部の形状や体格、環境から、向き癖や頭部変形への影響が懸念されている。向き癖や頭部変形も、運動発達遅延との関連があるとの報告がある。そのため、発達促進に加え、向き癖や頭部変形予防にも考慮しながらのNICUでの理学療法について、臨床場面を交えて考えたい。

#### ⑤修正4か月より頭蓋矯正ヘルメット治療を行った早産児の運動発達経過

○金子裕美<sup>1)</sup>

1)東京女子医科大学病院リハビリテーション部

早産・低出生体重児を理学療法士がNICUより発達支援で介入する事が増加しているが、早産児の問題点として位置的頭蓋変形が挙げられている。本症例は、入院中からリハビリ介入開始となり、退院後の区の健診で頭部変形を指摘され、ヘルメット治療が開始となった。また外来リハビリで発達フォローを継続した為報告する。家族の反応は、ヘルメット治療に対して治療開始前より受け入れは良く、装着開始後も特に困りなく経過した。また、治療終了後の満足感も得られていた。また運動発達では、ヘルメット装着後も発達の遅れは見られずに経過した。

#### ⑥ヘルメット治療を行った脳室周囲白質軟化症児に関する症例報告 発達の経過、PTの工夫

○木庭小百合<sup>1)</sup>

1)ベビーのための訪問看護ステーションベビーノ

今回、極低出生体重児で脳室周囲白質軟化症(PVL)に伴う痙性麻痺を呈した児で、頭蓋矯正ヘルメット治療を行った症例を経験した。脳の器質的障害のある児のヘルメット治療についての報告やご家庭での様子を報告した文献は少ない。ヘルメット治療による児や家族への影響、発達経過や理学療法(PT)の工夫を先行研究との比較検討を交え報告する。

## ⑦頭蓋変形と向き癖に対する医療的ケア児の親へのアンケート調査

○内尾優<sup>1)</sup> 平原真紀<sup>2)</sup>

- 1)東京医療学院大学保健医療学部リハビリテーション学科
- 2)ベビーのための訪問看護ステーションベビーノ

医療的ケア児の保護者を対象に頭蓋変形と向き癖に関するアンケート調査を行った。向き癖や頭部変形に関して 60%以上の保護者が平均月齢 4 か月と比較的早い時期に医療者へ相談を行っていた。医療者からの回答は環境調整やヘルメット治療の紹介、枕の使用促しなどがあったが、成長すれば良くなる、髪が生えれば目立たなくなるといった回答も多かった。

## ⑧3D 画像解析による成人の頭蓋変形と運動パフォーマンスの関連

○河野龍哉<sup>1,3)</sup> 黒米寛樹<sup>1)</sup> 笹野真央<sup>1)</sup> 白水杏奈<sup>1)</sup> 高岡翼<sup>1)</sup> 内尾優<sup>2)</sup>

- 1)東京医療学院大学保健医療学部リハビリテーション学科理学療法学専攻
- 2)東京医療学院大学保健医療学部リハビリテーション学科
- 3)現所属：池上総合病院リハビリテーション室

本研究の目的は、若年成人を対象に非対称性の頭蓋変形が運動パフォーマンスに及ぼす影響について明らかにすることである。対象は、健常若年成人 52 名とした。対象を 3D 画像撮影解析装置 VECTRA®H2 にて頭部変形あり群、頭部変形なし群の 2 群に分類した。2 群間で運動パフォーマンス評価である Modified Star Excursion Balance Test を比較した結果、頭部変形あり群は、変形なし群に比べ運動の左右差が大きかった。よって、若年成人の頭蓋変形は運動パフォーマンスに影響する可能性が考えられた。

## ⑨乳幼児の頭蓋変形に関する実態調査：五島プロジェクト

○本多由依<sup>1)</sup> 神徳備子<sup>2)</sup> 江藤宏美<sup>2)</sup> 細野茂春<sup>3)</sup>

- 1)長崎大学大学院医歯薬学総合研究科保健学専攻
- 2)長崎大学生命医科学域
- 3)自治医科大学附属さいたま医療センター

乳幼児の頭の形は、児の成長・発達と密接な関係がある。頭蓋変形の原因の多くは向き癖によるものであるが、わが国において頭蓋変形の発生頻度は不明であり、積極的な診断や治療には至っていない現状がある。本研究では、長崎県の五島(福江)において、4 か月・1 歳半・3 歳半健診児を対象に、3D スキャナと「頭のかたち測定」アプリの 2 種類の測定方法を用いて、頭蓋変形の発生頻度を明らかにすることを目的としている。現時点(7/31)で、頭蓋変形が認められたのは、4 か月児 42 人中 2 人(4.8%)、1 歳半児 34 人、3 歳半児 6 人ではなかった。

第9回日本頭蓋健診治療研究会・学術集会 協賛

0歳からの頭のかたちクリニック

ホームページ <https://baby-helmet.com/>